

佳作

## みんなでのりきった千本すぶり

茨城県 日立市立大沼小学校五年 山田 結翔

剣道を始めて三年目、コロナ禍がすぎて今年の夏は、合宿がある、と聞いたとき、ぼくの心にきんちようが走りました。初めての合宿なので、どんなことをするのか、どうやってねたりするのか、ご飯は自分たちで作るのか…と、ドキドキと不安の気持ちでいっぱいでした。

合宿当日、大切な竹刀と防具、ねとまりするため的大荷物を持って気合を入れて行きました。集合するといつものメンバーや先生、先ばい方のすがたを見て、何だか心がほっとしました。

ぼくの道場の合宿では、先生も部員も全員で二十分間を通して止まることなく、千本以上のすぶりをする伝とうがあります。初めての二十分で千本すぶりでは、みんなでいっせいに大きい気合いで数を数えながら、一本一本をていねいに打ちこみました。

合宿での二日間はあっという間で、みんなとねとまりしたりしてとても楽しい時間がたくさんありました。合宿に参加するまでは、色々と不安や心配していたけれどなんでも勇気を出してやることが自分にとって大きな力になることに気づけました。この感動した経験を大切に、今後のぼくの人生に活かしていきたいです。

しかし、六百本をすぎたところから、だんだん苦しくなり、うでを上げるのが辛くなってきました。そして、一本一本にかける集中力が少しずつ欠けていきました。その時は、正直、早く終わらないかなあという気持ちが出てきました。しかし、周りのみんなも一生けん命がんばっているの、ぼくもいっしょに最後までやりとげるために、がんばらないという気持ちに自然となれました。そこから気持ちを立て直し、一本一本を大切に休むことなく、しっかりと最後までやりとげることができました。終わった時は、とても達成感があり、すごく気持ちが良くて、うれしかったです。この千本すぶりは一日に二回ありました。いつものけいことはまたちがったきびしさがあるんだなあ、感じました。始まる前にみんなで輪になって、

「がんばるぞ!!オーツ!!」

と気合を入れて、二回目も最後まで、全員でふりきることができてとても感動しました。ぼくの手の平は皮むけもせずケガ無くできて本当に良かったです。先生から、皮がむけずにできたということは、正しい打ち、正しい竹刀のにぎりができているのだとほめられて、うれしかったです。